

残布で東北支援を

「グランマのオーナメント」

仕事を作り、心の交流も

東北を残布で支援しよう—という試みがスタートした。「グランマのクリスマスオーナメントプロジェクト」である。



渡邊社長

これはアバンティの渡邊智恵子社長が「グランマのクリスマス委員会」委員長となり、日本オーガニックコットン協会が協力するもの。

「被災地の女性たちに仕事を作り、そこから生まれた製品を通じて、心のこもった交流を作り出そう」という試みだ。



端切れでクリスマスのオーナメントを作る

また心の交流を生むのも狙いだ。オーナメントにはメッセージカードを付け、被災地で製品を作ったグランマに購入者がメッセージを送れるようにする。イベント後、グランマから復興の様子や自分の気持ちをつづった

メッセージカードが購入者に届く。すでに宮城県石巻市では仮設住宅の女性たちを中心に生産体制を確立。岩手県陸前高田市の縫製工場シェリール、久慈市の久慈ソーイングも参加する。「他の東北の縫製工場にも参加していただきたい」という。生地提供にはSHINDO、松岡織物などが協力。「イベントでは百貨店の協力

プレオーガニックでTシャツ

リバース・プロジェクト×プレオーガニックコットンプログラム

リバース・プロジェクト(東京都渋谷区)とプレオーガニックコットンプロジェクト(事務局は東京都渋谷区)は協働で、プレオーガニックコットンを使った新しいTシャツを発売した。

パニーが共同で企画・運営し、インドの綿花栽培農家に対して、農業や化学肥料による環境・健康被害や農業コスト増による農家の経済的負担などの悪循環を断ち切り、オーガニックコットンへの移行を支援している。

このほど発売したプレオーガニックコットン使用の新しいTシャツは、こうした両者の理念が合致して誕生した。伊勢谷氏が愛用するビッグTシャツをベースに、和歌山県の工場で編み立てたオリジナルボディを採用。リバース・プロジェクトの「再生」をテーマにしたデザインに仕上げた。

フリーで動ける形にし、産を中心に縫製品ビジネスを展開して、今期も引き続き拡大します。主産は東洋紡ニッテ

肩から肩へ円を描くように永遠と繰り返すフラクタル螺旋(らせん)構

を得られそう」と、準備が進む。問い合わせ先は電話03・3226・7789のアバンティ内グランマのクリスマス委員会まで。

視の姿勢は

フリーで動ける形にし

産を中心に縫製品ビジネス

今期も引き続き拡大しま